

## メディカル・プロフェッショナルリズムⅢ

科目責任者 山内 かつ代  
学年・学期 3学年・1学期

### I. 前 文

メディカル・プロフェッショナルリズムとは、「人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていくこと」とされています。すなわち、医師には社会から信頼され、思いやりを持って他者に接する態度などの医師に相応しい資質や能力が求められており、プロフェッショナルリズムはその最上位として医学教育モデル・コア・カリキュラムに挙げられています。獨協医科大学では順次性を持った6年一貫の「メディカル・プロフェッショナルリズム (D-Mep)」に能動的に参加することで、医師としてのプロフェッショナルリズムを涵養します。D-Mepでは、各学年の単位認定要件として「良き医師となるには」をテーマとしたレポート課題を実施し、医療に対する考え方や年間を通じた学修の軌跡を学生自身が振り返り、次年度に向けた目標を立てながら学修を進めます。

D-MepⅢでは、臨床技能を実践する際のプロフェッショナルリズムとは何か、また、情報化社会を支え発展し続ける人工知能 (AI) や情報技術 (IT)、情報通信技術 (ICT) の特性を理解し、情報・科学技術を活用しながら医学研究や医療を実践する能力を獲得することを目指し「臨床技能とプロフェッショナルリズム」と「デジタル・プロフェッショナルリズム」の学修が設定されています。また、医師として働く上で直面する可能性のあるバーンアウトとは何か、さらにそのような状態に適応していくための能力についても学びます。将来、情報・科学技術を正しく効果的に活用し、質の高い患者中心の医療を提供できる医師となれるよう、真摯に取り組んでください。

### II. 担当教員

<D-Mep 概論Ⅲ、臨床技能とプロフェッショナルリズム>

主任教授 山内 かつ代 医学教育学

<デジタル・プロフェッショナルリズム：医学情報の活用とその倫理>

学内講師 入江 駿

<デジタル・プロフェッショナルリズム：医療における生成AIの倫理と実践>

学外講師 鈴木 哲理

<バーンアウトとレジリエンス>

副学長 種市 洋

コーディネーター

学内准教授 奥田 竜也 基盤教育部門

### III. 一般学習目標

- ・プロフェッショナルリズムの視点から、医学生に求められる態度について学ぶ。
- ・臨床技能の視点から、医学生に求められる態度・技能の基礎を実践する。
- ・情報・科学技術を適切に活用し、質の高い医療を提供するための基礎を学ぶ。
- ・将来直面する可能性のあるバーンアウトの状態を理解し、その回避法について学ぶ。

### IV. 学修の到達目標

- 1) 社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動することができる。
- 2) 他者を適切に理解し、品格と礼儀、思いやりをもって接することができる。
- 3) 基礎的な臨床技能演習を通じて、医療者としてのプロフェッショナルリズムを理解し実践することができる。
- 4) 情報・科学技術を取り扱う際に必要な基本的原則およびその倫理について説明することができる。
- 5) 情報・科学技術を支えるAI、ITおよびICT等の特性を理解し、適切に活用することができる。

6) バーンアウトとはどのような状態か,また,そのような状態を回避するための方法について説明することができる。

V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ, 知識確認等の要素を教室で行う授業形態))  
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
 6: その他 空欄: 該当なし)

A グループ

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	20	水	1	D-Mep概論Ⅲ①: メディカル・プロフェッショナルリズムⅢの 学び方・考え方	山 内 かづ代	1, 2
2		20	水	2	臨床技能とプロフェッショナルリズム①	山 内 かづ代	1, 3, 6: 演習
3		20	水	3	臨床技能とプロフェッショナルリズム①	山 内 かづ代	1, 3, 6: 演習
4		28	木	1	自主学習		6
5		28	木	2	自主学習		6
6	6	4	木	1	医学情報の活用とその倫理①	入 江 駿	2, 3
7		4	木	2	医学情報の活用とその倫理②	入 江 駿	2, 3
8		11	木	1	臨床技能とプロフェッショナルリズム②	山 内 かづ代	1, 3, 6: 演習
9		11	木	2	臨床技能とプロフェッショナルリズム②	山 内 かづ代	1, 3, 6: 演習
10		18	木	1	自主学習		6
11		18	木	2	自主学習		6
12		25	木	1	医療における生成AIの倫理と実践①	鈴 木 哲 理	2, 3
13		25	木	2	医療における生成AIの倫理と実践②	鈴 木 哲 理	2, 3
14		26	金	1	バーンアウトとレジリエンス	種 市 洋	2
15		26	金	2	D-Mep概論Ⅲ- ②: メディカル・プロフェッショナルリズムⅢ 総括	山 内 かづ代	1, 2

B グループ

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	20	水	1	D-Mep概論Ⅲ①: メディカル・プロフェッショナルリズムⅢの 学び方・考え方	山 内 かづ代	1, 2
2		20	水	2	医学情報の活用とその倫理①	入 江 駿	2, 3
3		20	水	3	医学情報の活用とその倫理②	入 江 駿	2, 3
4		28	木	1	臨床技能とプロフェッショナルリズム①	山 内 かづ代	1, 3, 6: 演習
5		28	木	2	臨床技能とプロフェッショナルリズム①	山 内 かづ代	1, 3, 6: 演習
6	6	4	木	1	自主学習		6

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
7	6	4	木	2	自主学习		6
8		11	木	1	医療における生成AIの倫理と実践①	鈴木 哲 理	2, 3
9		11	木	2	医療における生成AIの倫理と実践②	鈴木 哲 理	2, 3
10		18	木	1	臨床技能とプロフェッショナリズム②	山 内 かづ代	1, 3, 6 : 演習
11		18	木	2	臨床技能とプロフェッショナリズム②	山 内 かづ代	1, 3, 6 : 演習
12		25	木	1	自主学习		6
13		25	木	2	自主学习		6
14		26	金	1	バーンアウトとレジリエンス	種 市 洋	2
15		26	金	2	D-Mep概論Ⅲ-②：メディカル・プロフェッショナリズムⅢ 総括	山 内 かづ代	1, 2

Cグループ

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
1	5	20	水	1	D-Mep概論Ⅲ①：メディカル・プロフェッショナリズムⅢの 学び方・考え方	山 内 かづ代	1, 2
2		20	水	2	医療における生成AIの倫理と実践①	鈴木 哲 理	2, 3
3		20	水	3	医療における生成AIの倫理と実践②	鈴木 哲 理	2, 3
4		28	木	1	自主学习		6
5		28	木	2	自主学习		6
6	6	4	木	1	臨床技能とプロフェッショナリズム①	山 内 かづ代	1, 3, 6 : 演習
7		4	木	2	臨床技能とプロフェッショナリズム①	山 内 かづ代	1, 3, 6 : 演習
8		11	木	1	自主学习		6
9		11	木	2	自主学习		6
10		18	木	1	医学情報の活用とその倫理①	入 江 駿	2, 3
11		18	木	2	医学情報の活用とその倫理②	入 江 駿	2, 3
12		25	木	1	臨床技能とプロフェッショナリズム②	山 内 かづ代	1, 3, 6 : 演習
13		25	木	2	臨床技能とプロフェッショナリズム②	山 内 かづ代	1, 3, 6 : 演習
14		26	金	1	バーンアウトとレジリエンス	種 市 洋	2
15		26	金	2	D-Mep概論Ⅲ-②：メディカル・プロフェッショナリズムⅢ 総括	山 内 かづ代	1, 2

## VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

### 【単位認定要件】

全15回終了後に課す「良き医師となるには」レポートの提出をもって、D-MepⅢの単位認定要件とする。このレポートではD-MepⅢでの学修内容を踏まえ、「良き医師となるために重要なこと」と「それを達成するために必要な自己の目標」を設定するものとし、作成したレポートはポートフォリオに記録する。

### 【成績評価】

各項目の担当者が実施する100点満点での評価を、「臨床技能とプロフェッショナリズム」40%、「デジタル・プロフェッショナリズム：医学情報の活用とその倫理」25%、「デジタル・プロフェッショナリズム：医療における生成AIの倫理と実践」25%、「バーンアウトとレジリエンス」10%に換算（小数点以下は切り捨て）後合計し、60点以上を合格とする。ただし、4項目の個別評価全てでそれぞれ6割を超える必要があるものとする。

なお、この4項目におけるそれぞれの評価方法の詳細は、各講義第1回目に担当者より説明するとともにLMSにて提示するので各自確認しておくこと。

D-Mepでは総合評価で不合格となった場合、成績の再評価（再試験相当）は実施しない。

### 【特筆すべきアンプロフェッショナルな態度への対応】

D-Mepにおいて「特筆すべきアンプロフェッショナルな態度」とは、以下の5点をいう。

いずれかに該当する場合は、減点または単位認定を保留とする。

- 1) 講義・演習への無断遅刻（一切認めない。10分以上の無断遅刻は無断欠席とみなす。）
- 2) 講義・演習への無断欠席（一切認めない。）
- 3) 講義・演習に臨む姿勢が極端に消極的または医師を目指すものとして不適切と認められる場合
- 4) 成績評価にかかる考査実施における不正行為（本学医学部試験及び成績評価に関する規定を準用する。）
- 5) レポートなどの提出物作成における剽窃（盗用）行為や生成AIの使用（指示や許可がある場合を除く）

## VII. 教科書・参考図書・AV資料

参考図書・参考文献については、以下のほか、講義時に適宜紹介する。

### 【参考図書】

- 1) 大生 定義「プロフェッショナリズム総論」, 京府医大誌120 (6), pp. 395 -402, 2011

## VIII. 質問への対応方法

各教員の研究室に入室する際は、平日の9:00 - 17:00を基本とし、担当教員に直接、あるいはコーディネーターを介して事前にメール等でアポイントメントを取ることが望ましい。

教員のメールアドレスは別途示す。

### ■D-Mep 概論Ⅲ, 臨床技能とプロフェッショナリズム

→山内 かつ代（医学教育学講座, 基礎医学棟2F）

### ■デジタル・プロフェッショナリズム：医学情報の活用とその倫理

→入江 駿（基礎医学棟1F）

### ■デジタル・プロフェッショナリズム：医療における生成AIの倫理と実践

→鈴木 哲理（質問は講義時あるいはメールに限る）

### ■バーンアウトとレジリエンス

→山内 かつ代（医学教育学講座, 基礎医学棟2F）

### ■D-MepⅢ全体を通しての質問・連絡・相談など

→奥田 竜也（基盤教育部門, 基礎医学棟3F）

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各項目のフィードバックの方法については、講義時に担当教員より説明する。

単位認定要件となる「良き医師となるには」のレポート課題については、学生自身の学修と成長の記録としてポートフォリオに記録するので、卒業時まで各自で活用されたい。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

各項目の事前学修・事後学修については、各担当教員より説明する。LMSを通じ連絡する場合もあるので、見落としなど無いよう注意されたい。なお、LMSを確認しなかったことによる不利益は、全て自己責任とする。

XII. コアカリ記号・番号

PR-01-01-01, PR-01-01-02, PR-01-02-01, PR-01-02-02, PR-02-01-01, PR-02-01-02, PR-02-02-01, PR-02-02-02  
 PR-03-01-02  
 CS-01-01-01, CS-01-02-01, CS-05-05-01, CS-05-05-02, CS-05-06-01, CS-05-03-02, CS-05-05-02  
 RE-01-01-01  
 IT-01-01-01, IT-01-01-02, IT-01-02-01, IT-01-02-02, IT-02-02-01, IT-02-02-02, IT-03-02-01, IT-03-02-02